

スルガ銀、赤字900億円

4～9月 旧経営陣を提訴へ

スルガ銀行は2018年4～9月期の連結最終損益が900億円程度の赤字になる見通しになった。審査書類の改ざんなど不正融資が横行し、投資家とのトラブルに発展したシェアハウス向け融資で、貸倒引当金を大幅に積み増す。シェアハウスは返済を滞納する所有者が増えている。不良債権の処理に今期でめどを

付け、銀行の再建に専念できる環境をつくる。(関連記事7面に)

延滞率が30%を超えるシェアハウスとは対照的に、その他の投資用不動産向け融資では1%未満。運営に問題がない例も多く、他の不動産関連融資での追加損失はほぼ発生しない見通しだ。

8月に公表した業績予想で、18年4～9月期の連結最終損益を前年同期比43%減の120億円の赤字と見込んでいた。6月末時点の自己資本は3200億円超。赤字を計上しても、国内で営業する銀行に規制上求められる自己資本比率の2倍以上にあたる8%超の水準を確保する。

スルガ銀は不正融資問題で会社に損害を与えたとして、岡野光喜前会長を含む旧経営陣らを提訴する方針を固めた。第三者委員会の調査報告書で「責任あり」と認定された取締役らが対象になる見通しだ。不正融資を見越して、銀行の信用低下や多額の費用負担につながったと判断し、経営責任を追及する。

有者らに土地・建物の購入資金を融資し、融資残高は3月末時点で2035億円にのぼる。

かぼちゃの馬車の運営会社は4月に破綻。約束された賃料を得られずに返済に行き詰まる所有者が続出した。18年3月期にシェアハウス向けの420億円を含めて計587億円の貸倒引当金を計上していた。

スルガ銀はその後、融資先ごとに賃料収入や返済状況、物件の担保価値を改めて査定。焦げ付きに備えた追加の引当金を大幅に積み増す必要があるかと判断した。

女性専用シェアハウスの「かぼちゃの馬車」の所

有者らに土地・建物の購入資金を融資し、融資残高は3月末時点で2035億円にのぼる。